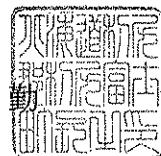




利 富 産 建 4185 号
平成 19 年 4 月 20 日

国土交通省道路局長 様

利尻富士町長 吉 田



道路整備計画の作成にあたっての意見書の提出について

平成 19 年 4 月 2 日付、国道企第 114 号により依頼のありました、道路政策や
道路の整備・管理等についての意見については、別紙のとおり意見書及び関係
資料を提出いたしますのでよろしくお取り計らい願います。

(産業建設課 まちづくり係)

鴛泊市街地整備計画に関連する道路政策及び道路整備・管理についての意見

◆ 背 景

鴛泊市街地は、利尻富士町における中心市街地で、名峰利尻山を有する利尻島の北東側の沿岸に位置しています。島の大半は、利尻礼文サロベツ国立公園に含まれています。

鴛泊は海と山の豊かな自然環境に囲まれており、古くから現道道沿線に商店街が形成され、海岸は漁場となってきました。

現在「利尻富士町まちづくり総合計画」に基づき、漁場の造成や種苗の放流などの漁業対策、公営住宅や高齢者・医療・福祉、下水道や生活改善などに取組んでいます。重要課題の一つである道道利尻富士利尻線・沓形仙法志鴛泊線改良については、市街地に整備を要する区間が残されています。

また、鴛泊市街地は利尻島観光の玄関口であることから、夏期を中心に多くの観光客が訪れます。利尻山登山の拠点となっているほか、ペシ岬、夕陽ヶ丘展望台、鴛泊海岸、鯨漁時代の船揚場の遺構など、多くの地域資源が存在しています。他方、過疎化と高齢化が商業活動の停滞を誘発し、町民の暮らしや生活に影響を及ぼし始めています。

こうした中、利尻富士町では、中心市街地の再生に真剣に向き合い、住民も来訪者も安心して居住・滞在し、まちの自然・歴史・文化や人にふれ、憩いや交流が生まれる市街地整備を目指し、長期的な視点に立ち総合的で一体感のある鴛泊市街地まちづくりを推進しています。

◆ 道路政策、道路整備・管理に関する意見

○ 稚内利尻礼文航路の国道化

- ・ 離島を結ぶ航路の国道としての位置づけの検討
- ・ 漁業生産物等は、航路～陸路を利用し出荷されているため、これら路線の高度化

○ 航路国道化に伴う交通拠点・地域交流施設（海の駅）整備の支援充実

- ・ フェリーターミナルの有効利活用（海の駅）
- ・ 鴛泊港の利尻島の玄関口としての整備（顔づくり）

○ 幹線道の機能強化

- ・ 観光地として景観にも配慮し、人が安心して歩きたくなる道づくり

○ 魅力ある道づくり

- ・ 人を大事にしている表現が感じられる道づくり

◆ 添付資料

- * 景観形成ワークショップ検討資料
- * 鴛泊市街地まちづくり計画書（案）《概要版》
- * 想定事業一覧

想定事業メニューリスト

整備テーマ	整備項目(案)	事業内容
幹線道路整備	道道拡幅整備	①拡幅整備計画 ②用地の取得・再編
	街並み景観整備	①緑化施設等 ②歩行支援施設・障害者誘導施設
商業活性化	地域交流センター	①地域交流センター
	ポケットパーク・看板・駐車場	①ポケットパーク ②駐車場 ③案内板
	観光連携事業の創出	①地域交流センターによる観光連携事業 ②シーサイドロードにおける観光連携事業 ③街並み景観形成事業 ④“お接待”事業 ⑤おもてなしの店先づくり
	魅力的な街並み形成	①道路・通路 ②小公園・緑地 ③空家住宅等修景・除却 ④水路 ⑤ストリートファニチャー ⑥案内板
鵜泊駅	フェリーターミナル増改築	①整備計画の策定 ②ボーディングブリッジの検討 ③大人数収容の施設規模確保 ④建物のバリアフリー化 ⑤駐車場の増設
	観光交流センター	①情報発信機能の充実 ②地元物産の紹介・即売等イベントスペース ③休憩・交流スペース
鵜泊港の整備	畜養殖施設	①畜養殖施設
	親水性施設整備	①フェリーターミナルに近接した交流拠点広場 ②漁業体験施設（いけすや直売所）
	ペDESTリアンデッキ	①ペDESTリアンデッキ
観光振興	漁業連携事業の創出	①漁業体験プログラム ②海洋体験プログラム
	ペシ岬展望台	①遊歩道や安全施設の整備 ②休憩施設の整備 ③看板等設置
	鵜泊海岸シーサイドロード	①シーサイドロード（遊歩道）の整備 ②誘導表示の充実
	鯨漁時代の船揚場「泉のなまこ」	①「泉のなまこ」の北海道遺産への登録 ②ビューポイントとしての周辺整備
	夕陽ヶ丘	①遊歩道や安全施設の整備 ②休憩施設の整備 ③効果的なPR ④看板等設置
漁業振興	後継者対策	①観光連携事業との連携
	加工品の開発と販路拡大	①加工品の開発
高齢化福祉対策	高齢者集会所	①地域交流センター
	高齢者住宅の確保	①高齢者向け優良賃貸住宅

平成18年度 景観形成ワークショップ より(中心市街地の道づくりについての検討内容)

1. 道づくりの課題

- ・ 島の住人は、車がなければ生活することができない。
- ・ 団体観光客は観光スポットをバスで回るだけで、市街地を歩かない。
- ・ 案内標識がなかったり、わかりづらい。
- ・ 道路拡幅工事で道幅が広くなれば、高齢者は一気に道を渡ることができない。
- ・ 歩道が整備されていない、歩きにくい、凹凸や砂利敷きなどバリアがある。
- ・ 歩道や自転車道に凹凸が多いため車道を歩いたほうが楽である。

2. 道づくりの方向性

道づくりの考え方

- ・ 交通の利便性ばかりではなく、商店街を通る区間もあることから、それぞれの区間に合わせた機能整備が必要。
- ・ 観光地として景観にも配慮した道づくり
- ・ 商店街と一体となった道づくり
- ・ 観光客と地元の人の両面から重視する必要がある
- ・ 人が歩きたくなり、安心して歩くことのできる歩道づくり
- ・ 車を利用する買い物客や配送車等にも配慮する必要がある
- ・ 冬期間の除雪の強化または除雪作業がしやすい

舗装のしつらえ

- ・ アスファルトは見た目のイメージで寂しいので、タイルなどを施して欲しい
- ・ 舗装は美観だけではなく、滑り止め等の工夫が必要
- ・ 車道と歩道の色合いを変えて欲しい

休憩スペース

- ・ 商店街ごとに施設と休憩スペースをセットで確保できないか
- ・ 空き店舗を活用したスペースを確保できないか
- ・ 店舗に囲まれたスペースが欲しい
- ・ 普段は人が休憩し、イベントもできるスペースがほしい(冬期間は雪置き場)

ユニバーサルデザインの対応

- ・ 段差をなくするなど、高齢者や身体の不自由な方にもやさしい道づくり
- ・ 除雪のための融雪溝や、ストックできる場所がほしい
- ・ 道路占用物は木質系で有機的な施しがいい
- ・ 夜のとおりは暗いので、明るくして欲しい
- ・ おもてなしの表現ができるデザイン

ワークショップの成果

“歩いて楽しい道づくり”

- 車との共存を図りつつ、人を大事にする表現が感じられる道づくり
- 舗装の美装化など、人を大事にする表現が必要

自然を守り
住んでよし
訪れてよしの
島づくり

鴛泊市街地まちづくり計画書(案)

《 概 要 版 》



平成19年1月
利尻富士町

I

計画の位置付けと事業構成

本まちづくり計画は、鷺泊市街地の総合的なまちづくりの目標です。この目標をもとに道道整備や他の事業を一体的に推進します。

上位計画

北海道離島振興計画

利尻富士町まちづくり総合計画

鷺泊市街地整備の目標

鷺泊市街地まちづくり計画書 (鷺泊市街地整備計画マスタープラン)

都市再生整備計画

関連事業計画(中心市街地活性化基本計画、港湾、水産、公営住宅等)

【想定される事業手法(案)】

【事業内容】

1. 道道整備	【道道】道道拡幅整備計画
2. 交通拠点整備事業(まちづくり交付金)	【フェリーターミナル】フェリーターミナルの増改築 【フェリーターミナル】駐車場の増設又新設
3. 都市施設・街並み整備関連事業(まちづくり交付金)	【道道】街並み景観の検討 【商店街】商店街沿道施設の整備 (トイレ、駐車場、シーサイドロード、地域交流センター等) 【道道】ポケットパークの整備 【鷺泊港】ベシ岬や商店街への誘導施設の整備 【高齢化】高齢者が利用可能な集会所整備 【神社通り】神社通りの再生 【神社通り】登山道として誘導標識等の整備 【神社通り】登山道起点の整備
4. 公園関連事業(まちづくり交付金)	【鷺泊港】親水性施設(公園)の整備 【海岸ルート】遊歩道整備(風袋～商店街～泉のなまこ) 【ベシ岬・夕陽ヶ丘】遊歩道及び安全施設の整備 【ベシ岬・夕陽ヶ丘】休憩施設の整備 【海岸ルート】“泉のなまこ”の北海道遺産への登録と周辺整備
5. 地域活性化施策関連事業 (まちづくり交付金、中心市街地活性化計画)	【商店街】観光連携事業の創出 【海岸ルート】海洋体験拠点として漁業連携事業の創出 【漁業】漁業連携時事業の創出 【漁業】加工品の開発と販路拡大 【ベシ岬・夕陽ヶ丘】PR作戦の展開
6. 水産関連事業	【鷺泊港】養殖施設の整備 【漁業】漁業連携時事業の創出
7. 公営住宅関連事業	【高齢化】高齢者住宅の確保

個別施策

II

施策展開とスケジュール

利尻富士町では、平成16年度より「鷺泊市街地まちづくり協議会」、「鷺泊市街地まちづくりワークショップ」等により多くの町民を交え本計画の検討を行って参りました。今後も、地域関係者からなる「鷺泊市街地まちづくり推進ワーキンググループ」を主体として、ワークショップの手法を活用するなど広く町民の意向を聞きながら、市街地活性化へ向けた活動の展開、事業実施における検討作業を行っていきます。

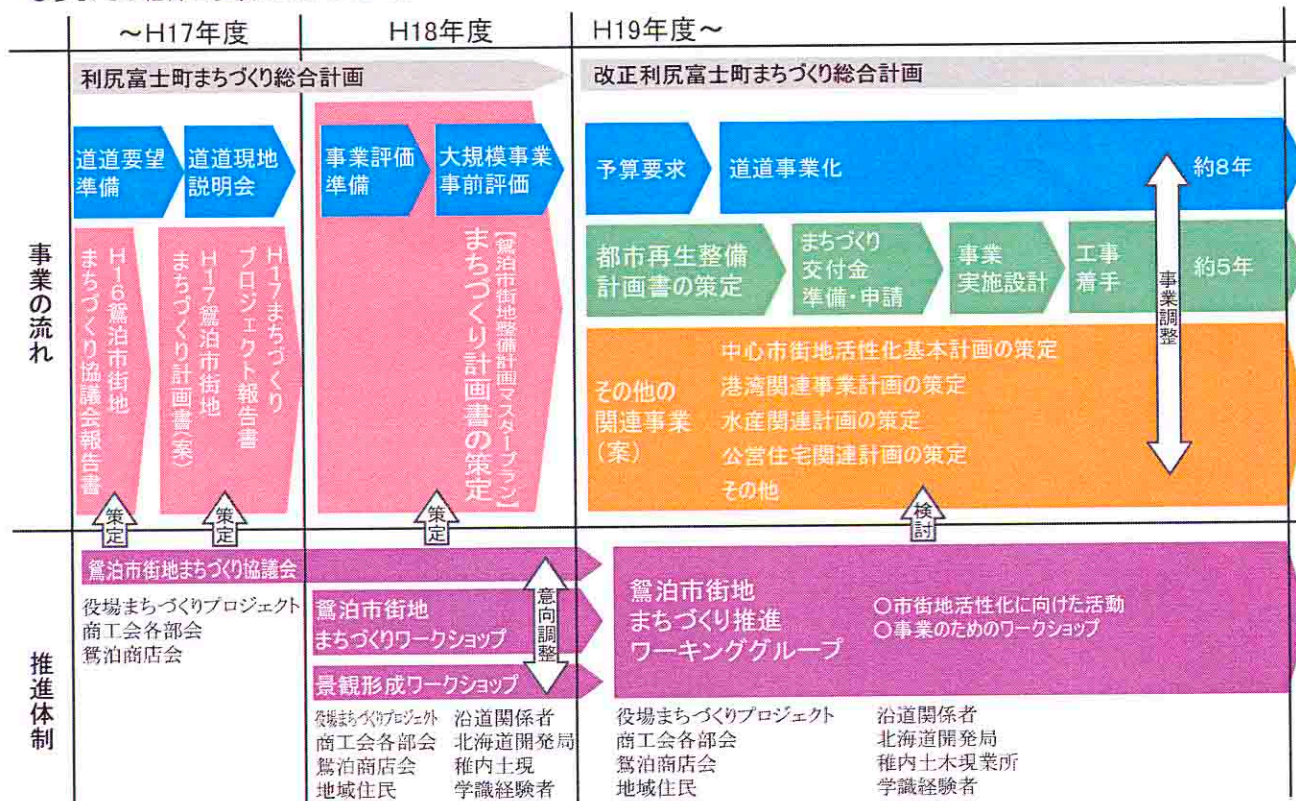
●平成18年度「鷺泊市街地まちづくりワークショップ」の様子



●ニュースレター



●今までの経緯と今後のスケジュール



III

利尻富士町のプロフィールと鴛泊市街地の位置づけ

1 プロフィール

利尻島は、北海道稚内港から西へ52kmの日本海に浮かぶ離島であり、北西に10km海を隔て礼文島と向かい合っています。利尻島は北東部の利尻富士町と西側の利尻町の2町からなります。

利尻富士町の面積は利尻島の59%を占め、海岸線の延長は約40km、主要な市街地は鴛泊地区と鬼脇地区の2地区となります。

名峰「利尻山」（標高1,721m）を有する、「利尻・礼文サロベツ国立公園」に位置し、優れた自然環境に恵まれています。また、利尻富士町は、フェリーターミナルと利尻空港を擁する鴛泊地区が島の表玄関となっています。

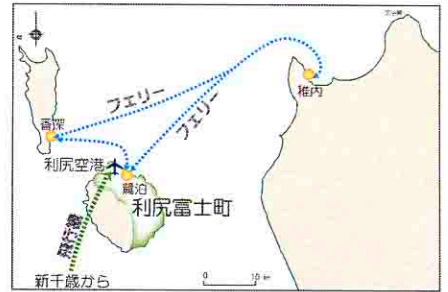
● DATA

人口：3,092人（1,402世帯）平成18年3月末現在

高齢化率：34.1%

観光入込客数：224,800人

主な公共施設：利尻空港、フェリーターミナル、利尻富士温泉保養施設、利尻富士温泉プール「湯泳館（ゆうえいかん）」、利尻島ファミリーキャンプ場「ゆ〜に」利尻島郷土資料館、カルチャーセンター・りっぶ館、パークゴルフ場、総合交流促進施設「北のしーま」、サイクリングロードなど



《交通アクセス》

飛行機：新千歳ー利尻空港（1時間00分）

フェリー：稚内港ー鴛泊港（1時間40分）

：礼文島香深港ー鴛泊港（40分）

2 まちづくりの課題

人口の減少と高齢化

人口は、昭和34年の11,234人をピークに減少し、平成18年3月現在で3,092人となっています。基幹産業である漁業の不振から若者の都市部への流出が続き、島における高齢化率は34.1%と、全国的な離島の高齢化率(30%)に比べても高い割合を示しています。

漁業

産業構造は、漁業を中心とする第1次産業が減少し、第2次、第3次産業の割合が増加しています。後継者不足や高齢化、自然環境や海況の変化により安定生産が確保できないなど漁業を取りまく環境は厳しい状況にありますが、まちを支える基幹産業であり続けています。

商業

商業は、大型店舗の進出や通信販売により商店の淘汰が進んでいます。観光客の増加により観光関連の商店・宿泊施設の販売額は増加傾向にありますが、個人商店の売上には結びついていない状況です。

観光

観光は、入込数がゆるやかな増加傾向を示していましたが、平成17年は23万人をわり、安定的な増加傾向とはなっていません。

3 上位計画

北海道離島振興計画

離島振興法第4条第1項に基づき、平成15年度「北海道離島振興計画」が策定されました。重点施策は以下の通りです。

- (1) 交通安全確保などのための道路整備
- (2) 漁業施設整備と栽培漁業の強化、水産加工業の開発
- (3) 水産業と観光の連携
- (4) 商店街の再開発と店舗の近代化
- (5) 住民参加による協働のまちづくり

利尻富士町まちづくり総合計画(1998～2007)

昭和63年に策定された「東利尻町発展計画」を基礎に、平成10年度～19年度の10カ年計画として「利尻富士町まちづくり総合計画」が策定されました。重点施策は以下の通りです。

- (1) 島内の主要幹線である道道の鴛泊地区未改良部分の早期着手
- (2) 利尻島の表玄関としての港湾整備推進
- (3) 漁業資源の不足、漁業後継者不足等に対応した施策の実施
- (4) 増加する観光客の受入施設、観光施設の整備
- (5) 漁業と観光の連携
- (6) 小売店舗の減少に対する対策、商業の活性化への取り組み
- (7) 高齢化対策の強化と施設の充実

4 鷺泊市街地の位置づけ

利尻富士町の中心市街地

利尻富士町における鷺泊市街地は人口の44%が居住しており、役場所在地や他の行政機関、金融、商店、観光宿泊施設などが集中しており利尻富士町における中心市街地を形成しています。

	鷺泊市街地	利尻富士町全体
人口	1,367 人(44.2%)	3,092 人
商業施設	35 軒	69 軒
飲食店	22 軒	34 軒
宿泊施設	22 軒	24 軒
年間観光宿泊	108,457 人(98%)	110,714 人

利尻島の表玄関

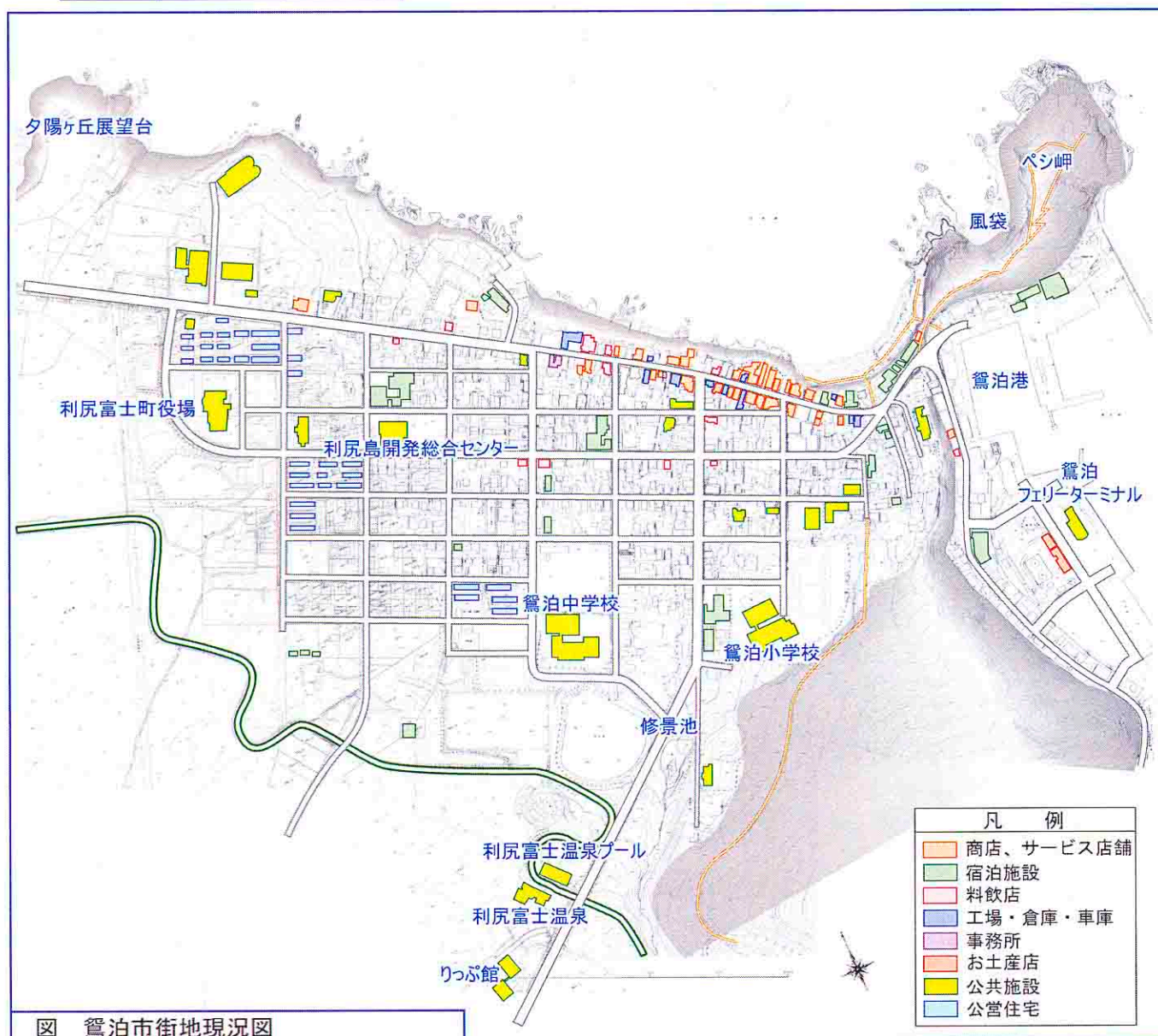
鷺泊市街地には、フェリーターミナルと船舶貨物輸送施設、漁業基地をあわせ持つ鷺泊港が整備されています。フェリーは稚内～鷺泊間で年間31万7千人を輸送しており、貨物は1,352千トン、漁港の登録漁船数は234隻の地方漁港となっております。

一方、鷺泊地区には1,800mの滑走路がある利尻空港が整備されており、年間24万人が利用しております。

利尻島観光の拠点

鷺泊市街地には年間22万5千人の観光客が訪れますが、観光ピークは6月から9月に集中しております。

観光宿泊施設は22軒あり、年間の宿泊人数は10万8千人と全町の98%を占め、利尻島観光の拠点となっています。



IV

鵜泊市街地の整備課題

1 プラスの資源・マイナスの資源

本計画を策定するにあたり、地域のこれまでを支えてきた「地域資源」の現状を、地域住民自らの目で見直しました。成果は、右の二つの視点から整理しました。

プラスの資源



地域の魅力として保全、発信していきたいもの

マイナスの資源



地域の課題として改善、再生していきたいもの

夕陽ヶ丘展望台



夕日などの眺望が素晴らしい
神秘的な雰囲気がある



誘導が不十分、利用されていない
もっとPRされてもいい

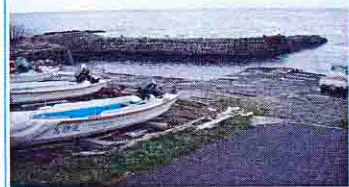
泉のなまこ



現存する鯨漁時代の石垣造りの
船揚場として大変めずらしい
稚内まで見る景観ポイント
石蔵も残っている

★なぜ「なまこ」と呼ぶの？～諸説あり～

①海に突き出た石積みの建造物が海のナマコに似ていることから
②「ふなま」（船の着くところ）としても利用しており、東北では名前の最後に「こ」を付けることから、「ふなまっこ」と呼ばれた。それが短縮され「なまこ」になった



商店街



商店街と海がとても近い

駐車場が無く、路上駐車が
道路がせまく、歩道がない
坂道、段差、砂利など歩きにくい
お店が暗くわかりにくい
ため利用しにくい
おもてなしの雰囲気や活気が見られない
空き家、空き店舗が目立ち寂しい
トイレなど休憩場所がない
看板や街灯がわかりやすさ、明るさに欠ける



芸術の森・リッパ館



施設は芸術的で設備は立派



立派なのに利用されていない
用途など認知されていない



さとうの浜



浜に名前が付いていておもしろい
番屋（作業場）がいい感じ



建物の裏側が見栄えが悪く、ごみも多い



風袋



地元でも知られざるいいロケーション
上から眺める風袋もきれいな
港近くで海と親しめる場所
トンネルや稚内防波堤などペシ岬の歴史



ゴミが多く捨てられている



神社通り



まちの歴史を知る通り
まっすぐ延び、海への景観軸として期待



登山の入り口として認知されていない



温泉・プール・足湯



温泉、プール、足湯を
気軽にいつでも使いたい



修景池



散策コースとして利用されている
のんびり出来て居心地がよい



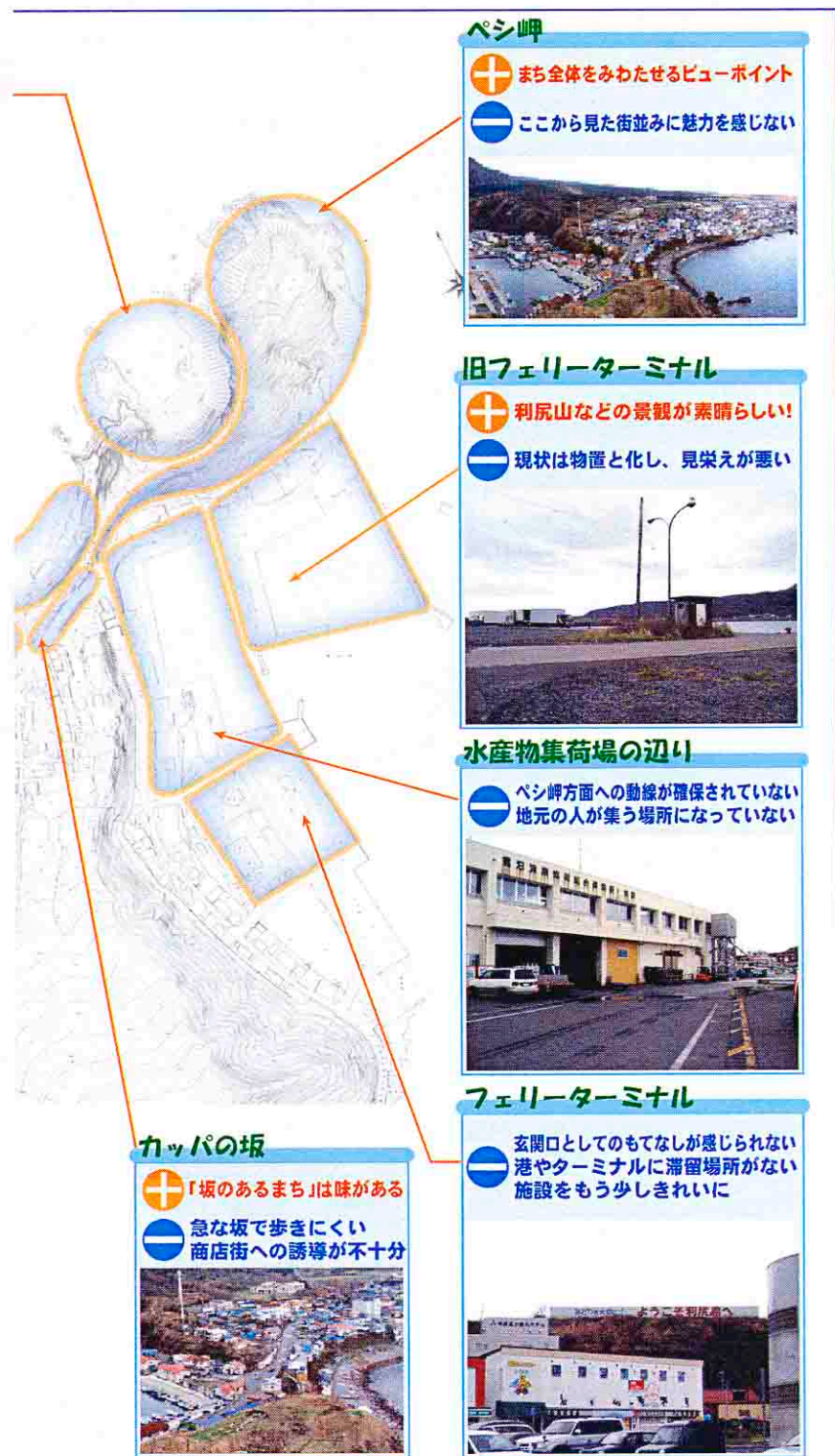
池の柵が無く危険かも



図 地域資源現況図

2 整備課題

地域の現状から、鷺泊市街地の整備課題は右の通りです
 (【地点】オレンジ文字は地域住民によるワークショップの成果です)。



1. 主要地方道の整備

- ◇道路の拡幅・線形改良
 - 【商店街】 狭い道路の拡幅を
 - 【商店街】 安心して闊歩できる歩道、休憩施設を
- ◇自転車歩行車道の整備
 - 【水産物集荷場近辺】 ペシ岬方面への動線確保
 - 【ペシ岬】 遊歩道の安全対策を
 - 【さとうの浜】 商店街裏に遊歩道を整備
- ◇緑化、街並みとの景観調和
 - 【全体】 標識類のデザイン統一

2. 商業活性化対策

- ◇街並み景観整備
 - 【商店街】 明るくわかりやすい街灯
 - 【商店街】 看板を歩道の材料にも工夫を
 - 【神社通り】 かつての神社通りを再生
 - 【神社通り】 景観の軸を形成
- ◇観光とリンクした店舗検討
 - 【商店街】 地元・観光の両視点から効率的な配置計画を
 - 【商店街】 お土産屋等観光客が「気になる」商店街を
- ◇空き店舗再利用、新規事業展開
 - 【商店街】 空き店舗の再配置イメージを
- ◇地域交流センターの新設
 - 【登山道起点】 観光、生活、登山用品店

3. 観光施設の整備

- ◇観光交流センターの整備
- ◇観光スポット、遊歩道等の整備
 - 【ペシ岬・風袋】 ペシ岬周辺をもっと紹介(説明)!
 - 【ペシ岬・風袋】 安全対策を
 - 【さとうの浜】 作業小屋の雰囲気を利用し誘導
 - 【泉のなまこ】 景観ポイント。北海道遺産登録を目指そう!
 - 【夕陽ヶ丘展望台】 恋人達の聖地として整備
- ◇温泉宿泊施設等冬季観光の開発

4. 鷺泊港の整備

- ◇フェリーターミナルの増改築及び機能強化
 - 【フェリーターミナル】 フェリーターミナルで情報提供
 - 【フェリーターミナル】 客をもてなし景観を楽しめるエリアに
- ◇ターミナル駐車場の整備
- ◇畜養施設の整備

5. 漁業対策

- ◇後継者対策
- ◇加工品等付加価値向上対策
- ◇観光と漁業の共存化政策
 - 【商店街】 海と商店街のつながりを
 - 【フェリーターミナル】 食べ歩き出来る場所、朝市・夕市の開催など
 - 【水産物集荷場近辺】 水産物と既存施設などを活用

6. 定住化、高齢化対策

- ◇地元産業の育成と新規事業の検討
- ◇高齢者の地元生活支援活動の充実
 - 【商店街】 地元客の利便性を
 - 【全体】 バリアフリー化の推進
- ◇健康の増進
 - 【温泉・プール・あしゅ】 健康活用プログラムを検討

7. 登山客対応

- ◇登山客対応施設の充実
 - 【神社通り】 登山口としての役割を強化
- ◇マナー指導体制の強化

8. 芸術文化体験

- ◇既存施設の利活用方策の検討
 - 【芸術の森・りっぶ館】 イベント等有効な利用方法を考える

V

鵜泊市街地の整備の方向性

1 整備目標

鵜泊市街地の課題を整備する方向としては、住民の暮らしやすさ（利便性）、新しい観光の視点（観光をまちづくりに活かす）が必要です。

住みやすさと観光をまちづくりに活かし、住民、来訪者の双方が集い、歩き、楽しむ市街地を形成するため、右記の整備目標を設定します。

「自然を守り、住んでよし、訪れてよしの島づくり」

自然を守り

利尻山と海と緑に囲まれたコンパクトな市街地を島民が守り、誇りに思うまち

住んでよし

一人一人が健康で快適な日々を過ごし、厳しい季節もあるが親切に協力し合うまち

訪れてよし

美しい自然や活気あふれる漁師町に憧れ集う旅行者と、おもてなしの心を大切にする住民が交流するまち

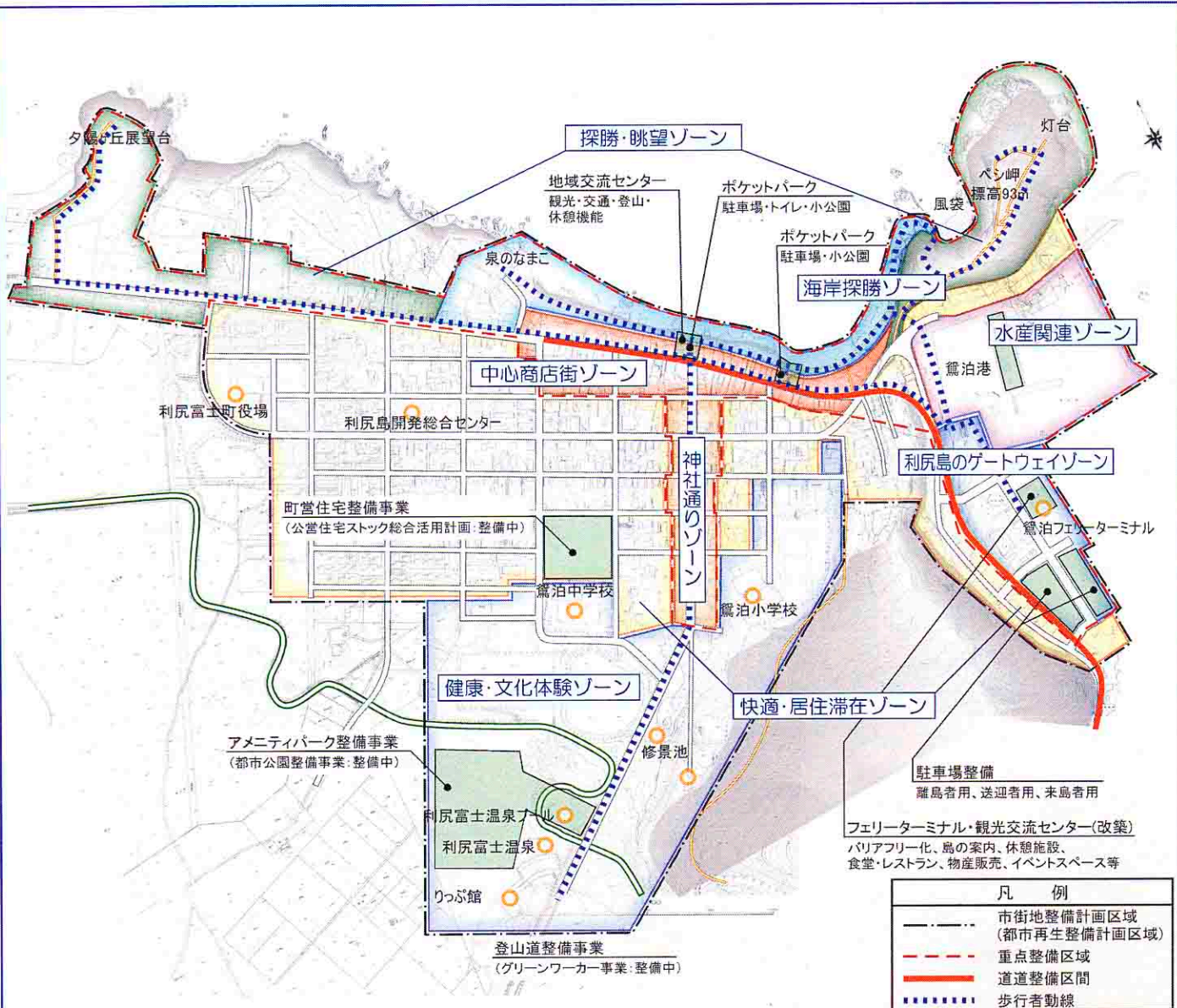


図 都市再生整備計画ゾーニング図

2 整備区域の設定

1. 都市再生整備計画区域

既に進行中の事業を含め、本整備計画で実施しようとする市街地整備計画区域を都市再生整備計画区域として設定します。

2. 重点整備区域

市街地整備計画区域のうち、新たに鷺泊市街地まちづくり計画によって整備する区域については、重点整備区域とします。

3 ゾーン形成の方針

道道・中心商店街ゾーン

- ★安全で利便性が高く、景観に調和した道道の整備を行います。
- ★道道整備と合わせ、個性を持った商店の整理・集積を図り、漁師町の魅力と生活利便性向上を目指します。
- ★商業、観光、生活の重心としてまちの総合拠点を形成します。

神社通りゾーン

- ★まちの発展の中軸であり続けた神社通りの賑わいの再生と、登山道としての誘導機能強化を図ります。

利尻島のゲートウェイゾーン

- ★利尻島観光のもてなしの玄関口として、フェリー・自動車・歩行者の交通結節点機能の増強を図ります。

水産関連ゾーン

- ★漁業やレジャーなど賑わいや活気を予感させる誘導機能を充実します。
- ★水産加工品等の付加価値向上や観光と漁業の共存化に資する施策を展開します。

探勝・眺望ゾーン

- ★ペシ岬及び夕陽ヶ丘展望台とまちの間に誘導する景観ポイントを形成するとともに、利用環境の向上を図ります。

海岸探勝ゾーン

- ★商店街と隣接し、海と水産を感じる体験拠点を形成します。

健康・文化交流ゾーン

- ★健康で文化的な町民生活をささえる施設整備と、既存施設の活用を図ります。

快適・居住滞在ゾーン

- ★住民や滞在者へ快適な住環境を提供するため、公営住宅の適正配置や生活環境の管理を進めます。

4 整備計画

1. 道道の整備

- ◇ 拡幅整備計画
- ◇ 街並み景観の検討

2. 商店街・商業活性化対策

- ◇ 商店街沿道施設の整備
(トイレ、駐車場、シーサイドロード、地域交流センター等)
- ◇ ポケットパークの検討
- ◇ 観光連携事業の創出

3. フェリーターミナル周辺

- ◇ 繁留施設の増設
- ◇ 交通結節点機能強化のためフェリーターミナルの増改築
- ◇ 駐車場の新設又は増設

4. 鷺泊港の整備

- ◇ ペシ岬や商店街への誘導施設の整備
- ◇ 親水性施設(公園)の整備
- ◇ 畜養殖施設の整備

5. ペシ岬・夕陽ヶ丘展望台

- ◇ 遊歩道及び安全施設の整備
- ◇ 休憩施設の整備
- ◇ PR作戦の展開

6. 海岸ルート・遊歩道整備

- ◇ 遊歩道整備(風袋～商店街～泉のなまこ)
- ◇ 海洋体験拠点として漁業連携事業の創出
- ◇ "泉のなまこ"の北海道遺産への登録と周辺整備

7. 神社通り・登山道起点整備

- ◇ 神社通りの再生
- ◇ 登山道として誘導標識等の整備
- ◇ 登山道起点の整備

8. 漁業

- ◇ 漁業連携時事業の創出
- ◇ 加工品の開発と販路拡大

9. 高齢化福祉対策

- ◇ 高齢者が利用可能な集会所整備
- ◇ 高齢者住宅の確保

VI 重点整備区域の整備計画①

1 道道整備

現在の道道利尻富士利尻線及び道道沓形仙法志鷺泊線は、幅員が狭小で歩道がないため、自動車の通行、歩行者の安全性、商店街の利用等に支障が生じています。道道の整備は、商店街をはじめとして、フェリーターミナルや空港から各地点への安全で円滑なアクセスを可能とします。道道整備事業を軸として商店街、フェリーターミナル、ペシ岬、神社通りなど他地区の整備を進めることによる相乗効果で、各地点への来訪者の増加が見込まれます。従って道道整備は、まちづくり計画を実現するうえで最も重要な事業です。

【整備前】



整備前の動線

- 貨物、乗用車、バスなど物流の動線が町道へ流出している
- 登山者、観光客などの動線が、商店街に歩道がないため素通りになっている
- サイクリングロードは整備されているが、商店街に歩道がないため迂回している

整備後

整備後の動線

- 貨物、乗用車、バスなど物流の動線が町道から道道に変わり、交通機能、生活環境が改善される
- 登山者、観光客などの動線が、商店街を通行するようになり活気に戻る
- サイクリングロードのネットワーク化が図られる

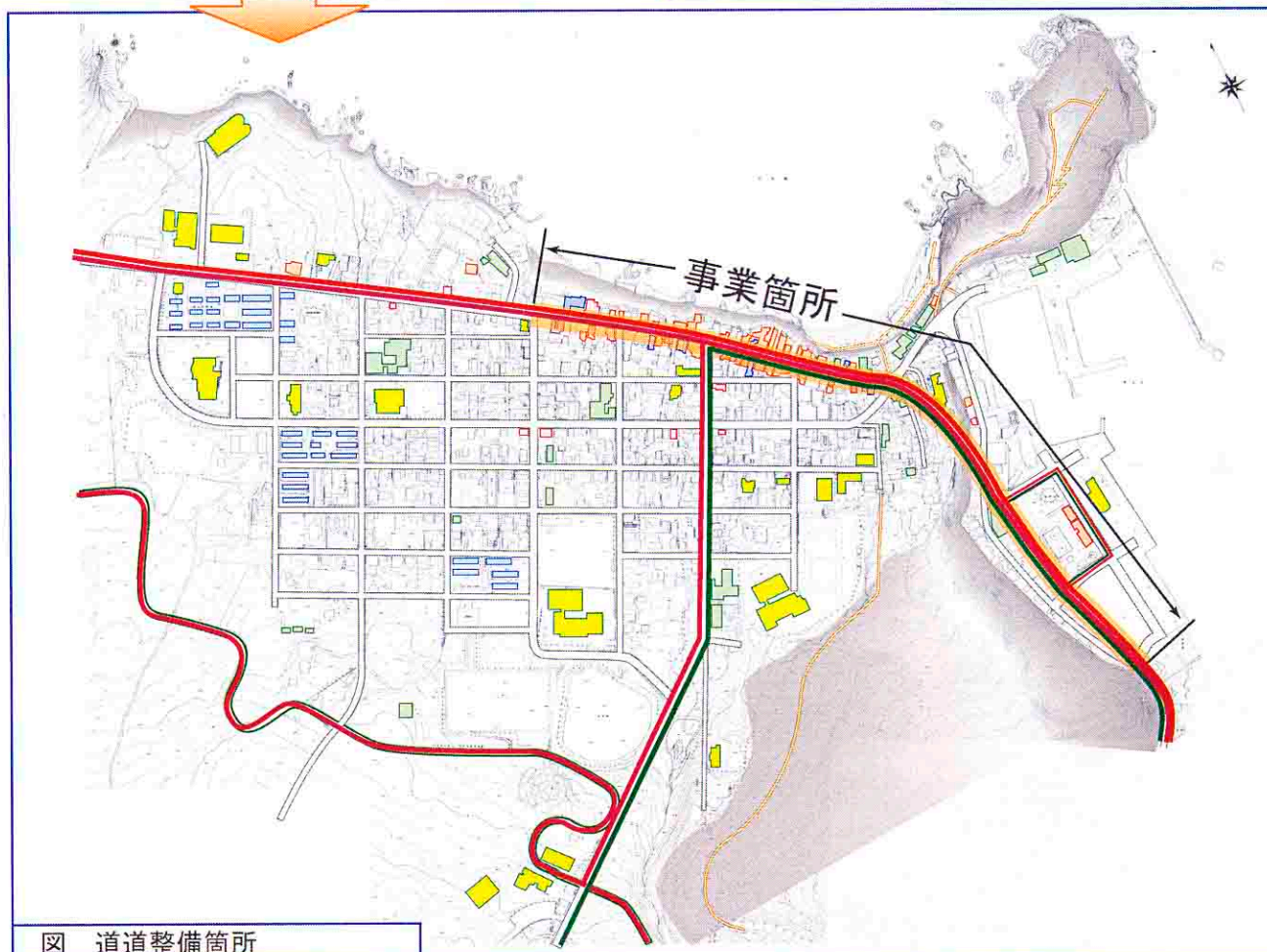
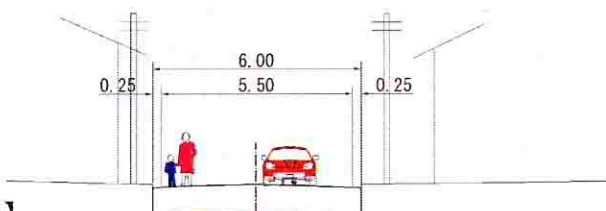


図 道道整備箇所

1. 拡幅整備計画

【整備前】

〔現況〕

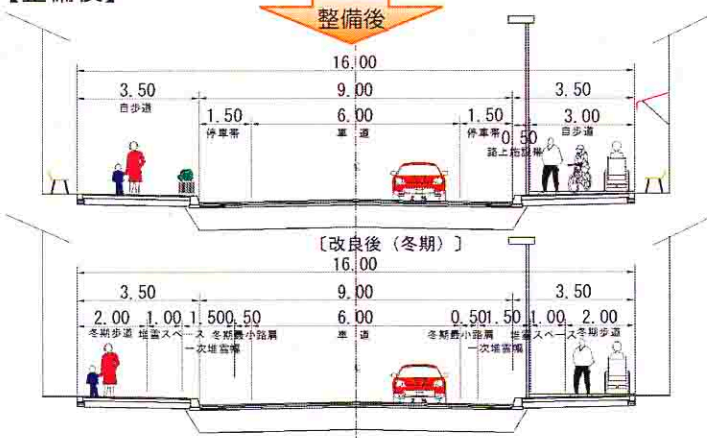


現状

- 歩道が無く、歩行者、自転車、自動車が共存する危険な状態である
- 道道は幹線道路でありバス路線となっている
- 観光バス等が町道を迂回し、商店街の存在が認知されない
- サイクリングロードの動線が商店街で寸断されている
- 冬季の積雪による交通障害が顕著である

【整備後】

整備後

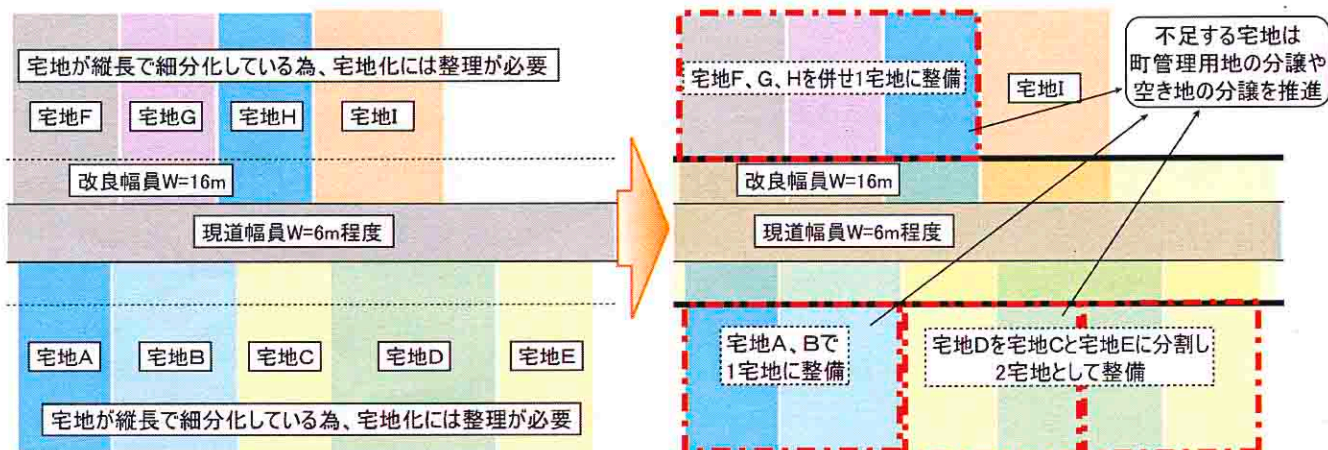


整備内容

- 歩道幅員
 - ・整備する歩道は、地域住民はもとより観光客へのサービス向上を考えユニバーサルデザインに配慮した計画とする
 - ・サイクリングロードのネットワーク化を図るため、自転車の通行を考慮した幅員とする
 - ・プランターや街路樹の植樹など地域活動における歩道の活用を考慮する
- 車道幅員
 - ・観光バスやトラック等の大型車輛の通行を考慮し安全でスムーズな走行が可能な車道幅を確保する
 - ・商店街部分の路肩は、バスなどの乗降や荷下ろしを考慮する
- 冬季積雪時
 - ・冬季における積雪を考慮した幅員構成とする

【整備手法】

◇利尻富士町は都市計画を定めていないため、道路用地を確保するために土地区画整理事業方式などを導入できません。このため、事業の実施について幅広い町民の理解を得たうえで、町役場主導による沿道住民組織の同意を得、個々の地権者の事情に応じた用地折衝を行います。



2. 街並み景観の検討

- ◇通常時の通行や冬季の凍結など自動車の通行に支障をきたさない素材とします。
- ◇一方で、街並み景観としての一体性に配慮し、可能な限り、商店街その他の地区の整備と合わせ統一感のあるデザイン構成とします。
- ◇デザインの選定にあたっては、デザインワークショップの開催や、個別に店舗整備についての意向を得るなどして地域住民の意見を多く取り入れながら検討を進めます。

VII 重点整備区域の整備計画②

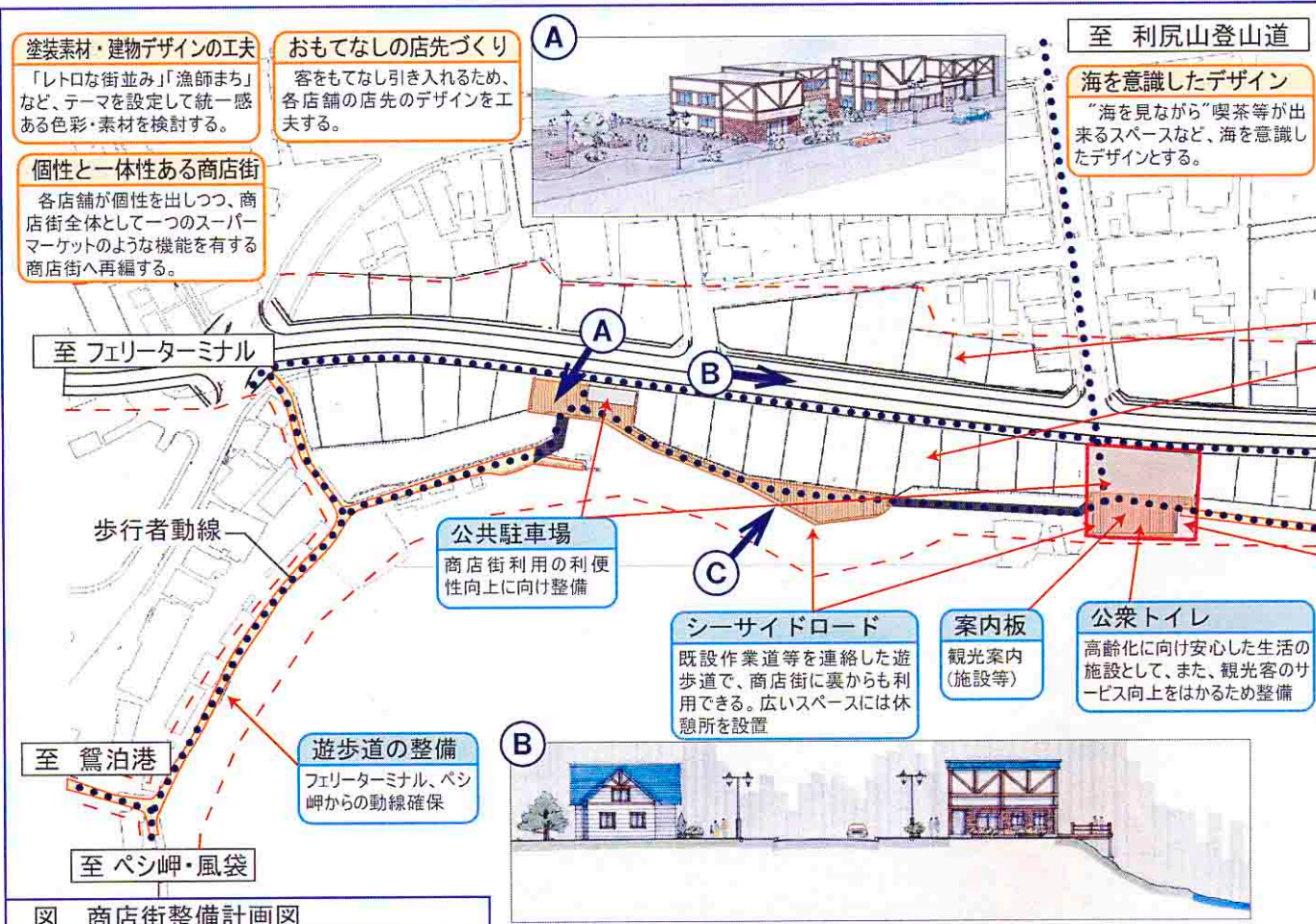
2 商店街・商業活性化対策

商店街の活性化は、道道整備と同じくまちづくりの主要な課題です。道道整備によりアクセス性の向上が図られことに合わせて、生活の場であると共に観光拠点としての中心市街地の再構築を進め、道道整備との相乗効果を生み出します。

商店街は、個性を持った商店の整理・集積を図り、漁師町の魅力と生活利便性向上を目指します。さらに、商業、観光、生活の重心として総合拠点を形成します。

【商店街沿道施設整備計画】

計画の目的	計 画 内 容	効 果
海岸線に遊歩道の整備	海岸線に既設作業道等を連絡させたシーサイドロードを整備し、海岸の景色を楽しみながら買い物や飲食が出来る場所を創出します。	商店街の活性化
商店の集約整備	商店と住宅・工場等をゾーニングし整理することで商店の利便性向上と活性化を推進します。	生活環境の向上 商店街の活性化
住民の交流施設整備	現在町内会の交流の場や冠婚葬祭に利用している開発センターが老朽化しています。この施設をまちの中心で整備し、各町内会の施設として地域住民へのサービス向上を図ります。また利用機会を増やし商店街の活性化にも利用できるよう、空いている期間は特産品販売やイベント会場として利用します。	生活環境の向上 商店街の活性化
公共駐車場の整備	空き店舗、空地を利用し公共駐車場を整備します。	生活環境の向上 商店街の活性化
公共トイレの整備	高齢化に向け安心した生活環境整備として、また観光客へのサービス向上をはかるため公共トイレを整備します。	生活環境の向上 商店街の活性化



【観光連携事業の創出(沿道計画活用イメージ)】

◇地域交流センター

- ・高齢化に配慮したシルバーレストラン
- ・利尻ブランド発信・販売
- ・登山拠点として用品販売・情報発信
- ・「おもてなしの店先づくり」の模範の提示



◇シーサイドロード

- ・特産品のPRを兼ねたお祭りの開催
 - 平成17年度:朝市の開催
 - 平成18年度:うにうにフェスティバル
- ・休憩施設を備え散策の促進



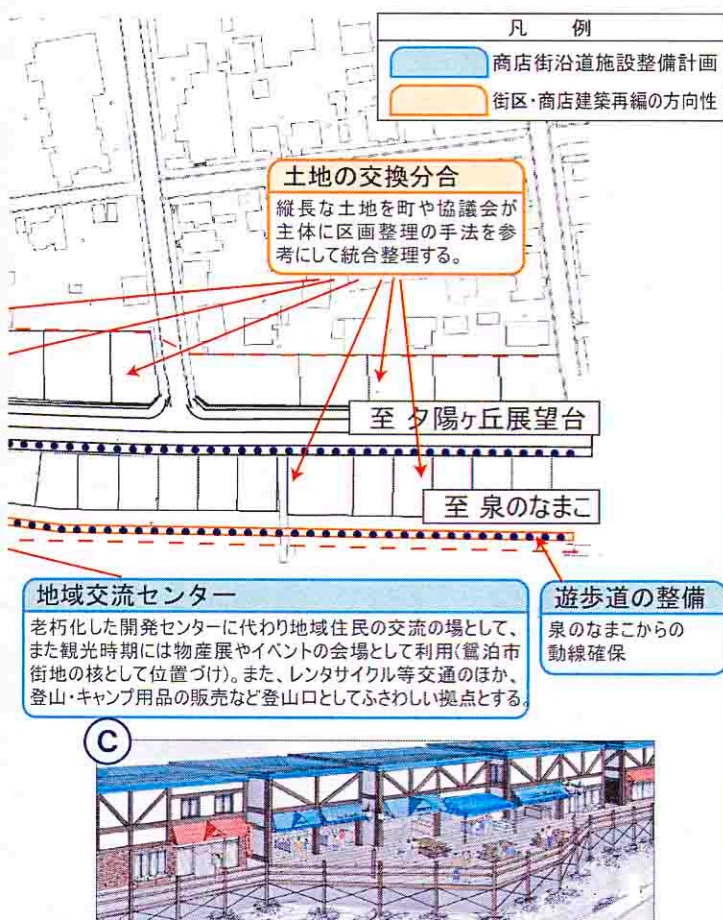
◇遊歩道

- ・海洋体験プログラムの開催
(ウニ採り体験、水泳、サーフィン等)



◇街並み景観

- ・利尻の花で飾るまちなみ
 - 平成18年度:まちなか花図鑑
 - 平成18年度:フラワーボランティア
- ・イメージキャラクターの利用
 - 平成18年度:りっぶ街路灯プランター



【地域交流センター・多機能トイレの新設】

◇地域交流センター施設機能

- ・観光／登山総合案内ブース
- ・一般食堂及びシルバーレストラン
- ・観光者向け売店
- ・登山客向け売店
- ・展望・休憩所
- ・集会・イベント空間
- ・利尻ブランドの展示・販売
- ・交通機関(レンタサイクル)



おもてなしの総合案内ブース
海が見えるイベント空間／レストラン
(写真はイメージです)

◇多機能トイレ施設機能

- ・男性用トイレ
- ・女性用トイレ
- ・多目的トイレ(身障者その他)

VIII 重点整備区域の整備計画③

3 フェリーターミナル周辺

フェリーターミナルの整備は、建物の老朽化、施設の不足だけにはとどまらず、本町の再生計画にとって増加する観光客に対応するための重要な事業です。滞留施設の増改築や駐車場の新設・増設により、利用客の回遊性・利便性の向上を図ります。

◇観光交流センターの設置

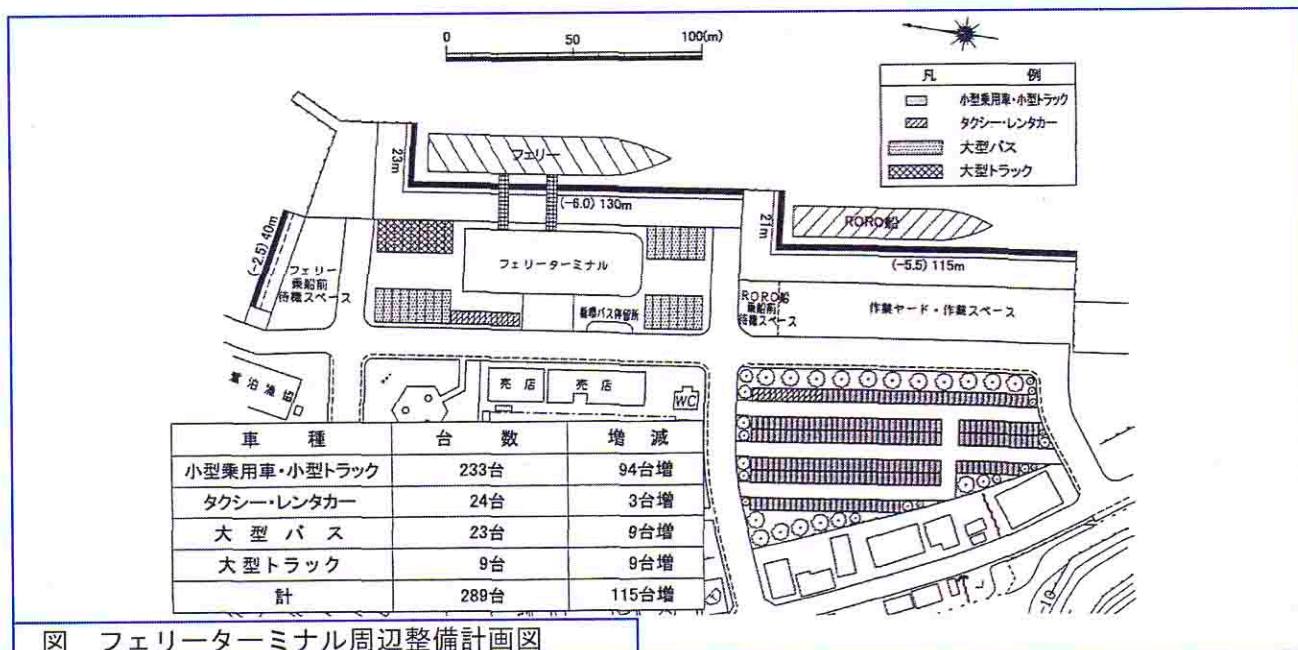
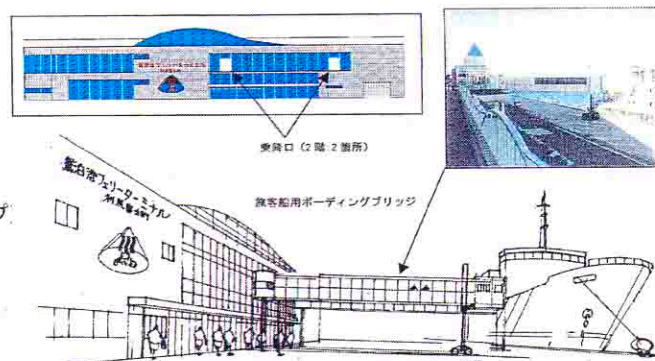
- ・ボーディングブリッジの設置
- ・荒天時など大人数の収容が可能な施設規模の確保
- ・建物のバリアフリー化

◇交通結節点機能増強のためフェリーターミナルの増改築

- ・情報発信機能の充実(ガイド人材設置、案内標識、ガイドマップ)
- ・物産販売施設の充実

◇駐車場の新設又は増設

- ・離島者、来島者、観光バス・タクシー等の利用環境向上
へ向けた駐車場の新設又は増設



4 鵜泊港の整備

鵜泊港は、鵜泊市街地の水産拠点であるとともに、フェリーターミナルからペシ岬や商店街への接続点ともいえます。鵜泊港では、水産・漁業対策を中心として、観光との連携を強め、誘導施設の充実や親水施設の整備により回遊性の向上を図ります。

◇ペシ岬や商店街へと誘導する通路の設置

- ・漁業に支障を与えずフェリーターミナルからペシ岬へと誘導する通路の設置
- ・海岸、商店街への誘導標識等の充実

◇親水施設(公園)の設置

- ・漁業体験(いけす、直市)や眺望確保のための公園等整備

◇畜養殖施設の設置



5 ペシ岬・夕陽ヶ丘展望台

ペシ岬は、年間約3万人もの観光客が訪れる観光スポットです。また、夕陽ヶ丘展望台は、優れた眺望がありながら、市街地からの誘導が十分ではありません。ペシ岬・夕陽ヶ丘展望台は、遊歩道や安全施設の整備により利用環境の向上を図ります。夕陽ヶ丘については、「恋人達の聖地」として売り出すなどの効果的なPRと商店街からの誘導を図ります。

◇遊歩道及び安全施設の整備

- ・危険箇所や、遊歩道がありながら立入禁止箇所となっている部分の再整備
- ・屋外イベント会場(結婚式等)としての夕陽ヶ丘展望台の整備

◇休憩施設の整備

- ・ペシ岬入口の既存施設の活用促進
- ・夕陽ヶ丘展望台においてPR作戦と連携した商品販売・滞留施設の整備

◇PR作戦

- ・夕陽ヶ丘展望台までの歩行者用誘導標識の充実
- ・「恋人達の聖地」としてのPR(CMでの売り出し、結婚式の開催など)
- ・ペシ岬入口の誘導標識の再整備
- ・ペシ岬周辺の歴史を紹介する解説板の設置
(ふたコブの頃のペシ岬、トロコトンネルなど)



6 海岸ルート・遊歩道整備

ペシ岬から商店街の裏側、「泉のなまこ」までの一体は、漁業の作業場として現在活用されており、漁師町の雰囲気を感じる絶好の地点です。この地点に遊歩道を整備し商店街等への回遊性向上を図ると共に、現況を保存し、昆布干しや漁場を身近に感じる地点とします。

◇遊歩道の整備(風袋～商店街～泉のなまこ)

- ・商店街や泉のなまこまでの誘導表示の充実
- ・現況の建物や作業場を保存した遊歩道の設置

◇漁業連携事業

- ・漁業者との連携による、ウニ採り体験など作業見学プログラムの検討

◇「泉のなまこ」の北海道遺産への登録と周辺整備

- ・漁業や建造物の歴史に価値がある「泉のなまこ」の北海道遺産への登録
- ・ビューポイントとしての周辺整備
- ・空き店舗の利用等による滞留施設の整備



7 神社通り・登山道起点整備

神社通りは、市街地の形成の歴史を見守ってきた発展の中軸といえます。現在は登山道としても位置づけられています。神社通りを、新たなまちづくりの中軸とし、かつての賑わいを再生します。

◇神社通りの再生

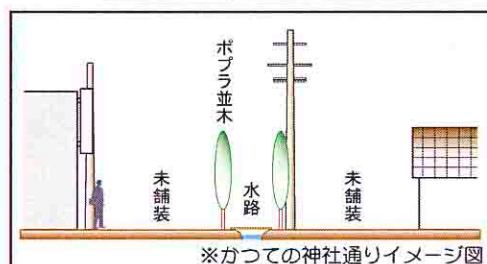
- ・かつての神社通りの街並み(水路、並木、繁華街)の様相を持つ街並み整備

◇登山道として誘導標識等の整備

- ・標高0m(海岸)からの登山道表示
- ・水路に名水「甘露泉水」の表示(水路をたどって甘露泉水へ誘導)
- ・神社通りから海への景観軸の形成

◇登山道起点の整備

- ・登山者における拠点施設(登山・キャンプ用品、登山情報発信)の整備
(→地域交流センターを参照)





むかし
Previous



いま
Present



これから
Future



鴛泊市街地まちづくり計画書(案)
《概要版》

問合せ：利尻富士町産業建設課まちづくり係
〒097-0101 北海道利尻郡利尻富士町鴛泊字富士野6
TEL 0163-82-2511(直通) FAX 0163-82-1373